



## 第26回 歴史探訪の会 「八尾の史跡」

実施日 2011年11月16日(水) 参加者 22名 案内者 内海春樹

今年の歴史探訪会は天候に恵まれず3回連続して中止になりましたが、今回はようやく晩秋の青空の下で行うことが出来ました。

今日は社友会の多くのメンバーにとって懐かしい八尾の北東部にある史跡を訪れました。

見学ルート

心合寺山古墳と学習館—大阪経済法科大学構内—愛宕塚古墳—都夫久美神社—八尾市立歴史民俗資料館

### 1、心合寺山(しおんじやま)古墳と学習館

近鉄電車の瓢箪山駅からバスで約15分、楽音寺停留所で下車し生駒山麓の古い集落の間を歩くと目の前に大きな古墳が現れる。中河内最大の「心合寺山古墳」である。



瓢箪山駅

大学前行バスの皆様



見学コースの説明

まずは古墳に附属する学習館に入る。そこで説明員の方から、床にある大きな八尾市の地図で古代からの大阪平野の成り立ちや、生駒山麓の楽音寺山古墳群、高安古墳群等の説明を受けた後、ビデオと展示品により心合寺山古墳の復元工事や発掘して出てきた品々を見る事が出来ました。

この古墳は生駒山地西麓で最大級の規模を持ち、山麓の傾斜地を大きく削り周濠を巡らせてい

る。整備事業に伴う数次の発掘調査により、全長が160Mで3段築の前方後円墳であることが判明した。後円部には3列の粘土郭が並び、前方部にも

1棺を収めた方形壇が築かれていた。築造年代は西暦400年前後（前期～中期）と推定される。

西側の造り出しに、導水施設を持つ家形の埴輪が置かれていた事から被葬者が神に祈りを捧げる禊（みそぎ）の場であったと考えられる。

説明の後、きれいに整備された古墳の上に登り粘土郭の位置や埴輪のレプリカ、又造りだしと家形の埴輪が出てきた場所を確認した。

後円部からは大阪平野が一望、JR久宝寺駅前の巨大なツインマンションも間近に見えその変貌ぶりに驚く。

学習館 HP 参照 <http://racco-taiken.com/sionji/>

心合寺古墳 HP 参照

[http://www.geocities.jp/kuuki\\_1/trip/050630sionziyamakohun/050630sionziyama.html](http://www.geocities.jp/kuuki_1/trip/050630sionziyamakohun/050630sionziyama.html)

是非ご覧ください

丁度昼になり参加者は古墳の周囲の陽だまりで昼食をとる。



心合寺古墳



石棺の説明



心合寺古墳の説明



埴輪



石積の説明



当時の石積設計ミスの箇所

## 2、大阪経済法科大学 構内

同大学が中国の考古学会と共同で各地の発掘調査を行った記念で中国から贈られた貴重なものを展示しているとの事を聞き、大学にお願いしご厚意により見学出来る事になりました。

たくさんの木々の間に明るいキャンパスが点在し、学生たちも楽しそうに語り合いながら歩いているのが見える。

私たちはそんな中を静かに展示されている場所へ行く。

### 「兵馬俑（へいばよう）」等身大レプリカ 将軍と兵士の3体

古代中国で死者を埋葬する際に副葬された俑のうち、兵士及び馬をかたどったものを言う。西安にある秦の始皇帝陵の一部として1987年世界遺産（文化遺産）に登録されている。（兵馬俑の数 約8千数百体）。

始皇帝の兵馬俑が発掘されて、世界を驚かせたのは1974年この地域で畑を営んでいた住人が井戸を掘ろうとして偶然見つけたのがきっかけだった。

この大文物群が発掘され調査が行われると、人々を驚かせるような事実が次々に明らかとなった。例えば、これらの兵士の俑にはどれ一つとして同じ顔をしたものはないことや、秦の軍隊がさまざまな民族の混成部隊であったこと及びかつての秦の敵国が存在した東方を向いて置かれていたこと等である。また、この文物により、当時の秦軍の装備や編成等、これまでは文献史料のみでしか伝えられていなかったものが、こうして実物大のものとして現代に生きる我々の目の前に登場したことは非常に大きい意義がある。

最近の調査によると、兵馬のみならず宮殿の実物大のレプリカや、文官や芸人等の俑も発掘されたそうである。

### 「好太王碑（こうたいおうひ）」等身大レプリカ

高句麗第19代の王である好太王（在位391～412年）は当時衰退していた高句麗の領土を拡大し発展させた偉大な王である。この石碑は4世紀末から5世紀初の朝鮮半島の歴史、古代日朝関係史を知る上での貴重な史料である。（碑文には当時の倭の国が百済と手を組み新羅に攻めた時これを撃退したとの内容が記述。日本書紀で神功皇后が4世紀後半に朝鮮へ出兵したとの記述に合う）

碑文によると、この碑は好太王の業績を称えるために息子の長寿王が 414 年に建てたものである。後年この碑は倒され土に埋められたが、1880 年（明治 13 年）頃に清の集安（現中華人民共和国吉林省）の農民により発見され全国重点文物保护单位に指定された。

今この碑は中国吉林省集安市の好太王陵の近くに存在している。碑は、高さ約 6.3 メートル・幅約 1.5 メートルの角柱状の石碑である。その四面に総計 1802 文字が刻まれ、碑文は純粋な漢文での記述となっている。碑文は風化によって判読不能な箇所も存在する。なお、現在、この碑文は風化・劣化を防ぐためにガラスケースで保護されている。



好太王碑



兵馬俑レプリカ

大学を後にして次は古民家や畑の間を抜けて愛宕塚古墳に向かう。

### 3、愛宕塚古墳

楽音寺古墳群の中に築かれた 6 世紀末の円墳と推定される。

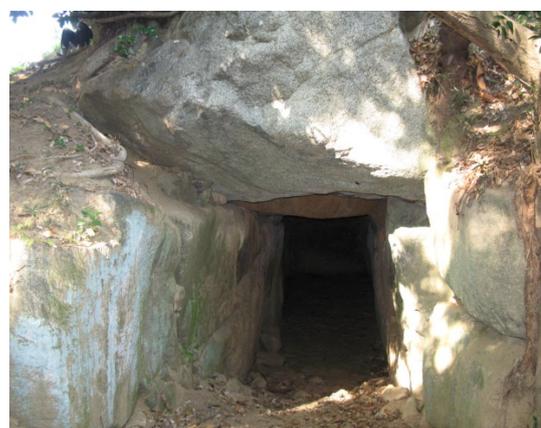
南に口を開ける全長 15.7M, 直径 22.5M, 高さ 9M の巨大な横穴式石室。

石室からは多数の馬具、耳飾りやガラス玉などの装身具、太刀、矛などの武器などが出土した。

真っ暗な石室に懐中電灯を照らしながら入り、使われている石の大きさに感嘆したり、古墳の上に登って景観を楽しんだりした。



愛宕塚古墳への道標



愛宕塚古墳

#### 4、都夫久美神社 (つぶくみ)

物部氏といえば、仏教伝来を巡り蘇我一族との争いに敗れた事が有名だが、その系図は渡来人の蘇我氏に比べはるか古い正統な家柄である。

都夫久美の名は物部氏の支族である積組連 (つぶくみのむらじ) に由来し物部氏の祖神である「宇摩志摩治命 (うましまじのみこと)」を祭神とする。

河内は物部氏の本拠地であり、八尾市内にある渋川神社の付近に物部守屋の邸宅があったといわれる。

物部総本家が滅亡した後、分家の石上氏が石上神宮を守る神官として名を残した



都夫久美神社



都夫久美神社社址

#### 5、八尾市立歴史民俗資料館

この土地で旧石器時代に使われていた道具から、近代までの八尾の歴史、民俗、文化、産業などを判りやすく展示されている。

説明員の方から、発掘された古墳の石棺や武器、壺などから、江戸時代の住人の像や古文書などを判りやすく説明して戴いた。

資料館の外に出ると秋の日暮れが近づき空気も冷たく感じる。

記念写真を撮り、心地よい疲れを覚えながら近鉄服部川駅で解散となった。

お疲れ様でした。



八尾市立歴史民俗資料館



八尾市古墳史跡案内図



参加者集合写真